

No.2	提 案 名：宇都宮ととのいプロジェクト～アツい空気を攪拌させろ！～	
	提案団体名：宇都宮大学都市計画研究室	
	所 属：宇都宮大学 地域デザイン科学部	
	代 表 者：横山進乃助	指 導 教 員：長田哲平 大森宣暁
メンバー	大村壮汰 遠藤大輔 及川新太 土田晃久 津野佑登 実川智貴 水野颯希 山口大智	

○ 提案の要旨

本提案は、テーマである「私たちからはじめよう にぎわいアクション」について、近年全国的なサウナブームが生じていることに乗じ、市民の健康増進のためという点も含めた提案を行う。サウナに関しての一般的なイメージとしては、温浴施設に備わっているものということが大きいと思うが、最近のトレンドとしては、テントサウナやプライベートサウナといった、身内でロウリュなどを楽しみながらととのうというものが大きい。特に、テントサウナは場所を問わず設置が可能で、テントを立てて薪で火を焚いてストーブを温めれば立派なサウナが完成される。この場所を問わず設置することができるというポータビリティを活かし、普段とは違う空間でととのうことができることの可能性と、これを核としたにぎわいの形成に関する提案を行う。また、既にほかの自治体がサウナを用いたまちづくりを行っている事例を紹介し、サウナというコンテンツの発展性についても提案を行う。

1. 提案の背景・目的

現在のサウナブームの発端とされているものが、2019年に放映されたテレビドラマ「サ道」の影響が大きい。というのも、現在においても、栃木県内にはほぼ存在しないが、全国各地に男性専用のサウナ施設が多く存在するように、一般的なイメージとして「おじさんが入るもの」という色が強く残っているからだと考える。しかし、サ道の放映により、サウナに入ることのイロハが普段サウナに入らない人にも映像で理解されるようになり、それとともに健康増進への期待が高まった結果、老若男女を問わず首都圏を中心にサウナブームに火が点いた。

その後、2020年初頭から COVID-19 の流行により、アウトドアアクティビティが注目されると、キャンプのお供としてのテントサウナ、他人との接触を避けたプライベートサウナなど、個性豊かなサウナが急増している。宇都宮市においても、2022年8月1日に、伝馬町に貸し切り型プライベートサウナ「KURA:SAUNA UTSUNOMIYA」がオープンし、首都圏から広がる新しいかたちのサウナの波が栃木県にも到達しようとしている（2022年11月現在、設備改良により無期限休業中）。

特に、可搬性があり、設備さえあればどこでもサウナを設置することができるテントサウナの注目度も高まっている。水風呂代わりに天然の川や海を使うために、そのそばにテントサウナを設置する例もあれば、火気や煙に気を付けたうえで、まちの中心部にテントサウナを設置することもできる。テントサウナは基本的に高価であり誰でも簡単に手にすることができるようなものではないため、キャンプをする際にテントサウナをレンタルしたり、テントサウナに入るためのイベントが多く企画されているが、どちらもサウナブームの波に乗っており、大きな賑わいをみせている。

今回はこのテントサウナに注目し、立派な街並みと豊かな自然が共存する宇都宮市において、テントサウナを用いることでととのいながら市内の魅力を再発見させるきっかけを作るとともに、

多くのサウナーを集めて賑わいを起こしていくことを目指す。また、サウナを活用したまちづくりや地域活性化を行っている自治体の事例を挙げることで、潜在的な需要を掘り起こすための提案をしていく。

2. 提案の目標・課題「私たちから始めよう にぎわいアクション」との関連

私たちが考える「にぎわい」や「魅力あるまちづくり」とは、ある場所でひとつのテーマに人々が集い熱狂する、そしてそれが持続・継続していくようなものであると考える。今でこそ、多くの温浴施設では感染症拡散対策のために黙浴が推奨されているが、身内で雑談したり交流したりしながら、特に野外の開放的な空間でサウナを楽しむことは、温浴施設でサウナに入るのとは違った感覚が一般に感じられると考える。また、近年日本でもアウフギーサー（熱波師）というサウナ室内でアロマの香りでリラックスさせるとともに発汗を促しサウナの効用を高めるほか、ショー的な側面でサウナに入っている人を熱狂・陶醉させる職業が確立されてきている。これらを組み合わせた催しなどを開催できれば、サウナとその開催場所、熱波師の追っかけなどで多くのにぎわいが波及していくのではと考えている。

3. 現状分析

3.1 自治体がサウナを活用したまちづくりを行っている事例

(1) ととのう とっとり（鳥取県）¹⁾

豊かな鳥取県の自然を五感で味わうために、サウナでととのう体験を PR している。

自然の中でサウナを体験することによって、大地が育んだ水の心地よさや、森を駆ける風をより深く感じさせてくれることから、空気はよりおいしく、体は水を入れ替えたような状態になり、そのうえで鳥取ならではの食を味わい、人と触れ合いながら鳥取県の姿を辿っていくキャンペーンである。サウナイベントの主催とともに、鳥取県内のサウナを巡るツーリングプランの提案をしている。

また、鳥取県琴浦町に、大山隠岐国立公園内に存在する一向平キャンプ場があり、併設されたサウナ「Nature Sauna」では本格的なフィンランドサウナが楽しめるほか、琴浦町の地域おこし協力隊でこのキャンプ場を拠点としている、ととのうとっとり CEA（最高経営熱波師）兼プロアウフギーサーである五塔熱子氏は、オランダで行われたアウフグース世界大会に出場するなど、鳥取県内や山陰地方のみならずサウナ・アウフグースの普及活動もしている。

(2) おんせん県いいサウナ研究所（大分県豊後大野市）²⁾

日本国内でも有数の温泉地である大分県に位置しながら温泉が出ない、大分県南部にある豊後大野市は、豊かな大地と山々に囲まれており、大自然を活かしたサウナに適した透き通るほどきれいな川と祖母傾山系の大自然が広がっている。おんせん県いいサウナ研究所はアウトドア・サウナに取り組む民間事業者が設立した協議会だが、豊後大野市はこれらの大自然とサウナの組み合わせを新たな観光資源として活用し、地域と連携して取り組みを進めていくために「サウナのまち」宣言を行った。このことに関して川野文敏豊後大野市長は、「九州で唯一『ユネスコ・エコパーク』と『日本ジオパーク』の両方に認定された素晴らしい自然と雄大で美しい大地を有しており、こうした自然や大地を体感できるアウトドア・サウナは、『おんせん県』を標榜する大分県にあって温泉資源のない本地域の新たな魅力や活力を生み出す原動力となる」と述べている。³⁾

(3) 椎葉村秘境サウナデザインコンテスト（宮崎県椎葉村）⁴⁾

日本三大秘境のひとつである椎葉村は 1000m を超える九州山脈に囲まれ、村の 96% を森林が占める自然豊かな村であり、杉の埋蔵量は日本一ともいわれ、豊富な地域材が魅力だが、その大半が村内で活用されていない課題が存在した。この地域材を活用し、地域を盛り上げるために、村の交流拠点施設内に CNC 加工機が導入され、これを利用したサウナを作るためのデザインを募集したコンテストである。

このコンテストでは 239 点の応募が届き、その中から 2 点が優秀賞として選ばれ、今後実際に椎葉村内に建設される。その後椎葉村役場の所有となり、運営・メンテナンスは椎葉村役場の意向に沿う形で別事業者が運営するものと思われる。

(4) ほたるいミュージアム・タラソピア サウナ設置計画（富山県滑川市）

滑川市を中心とした、サウナを利用した地方創生的なまちづくり計画で、最終的には「富山県＝サウナ県」と呼ばれるところまでを目指している。

滑川市に存在する公共温浴施設「タラソピア」では、もともと赤字続きであり、それを変えるべく施設の足湯スペースにサウナを常設して盛り上げたいと計画した。この計画の先駆けとして、2022 年 10 月 29－30 日にこの施設に通された富山湾の深海を汲み取れる管を利用し、その海洋深層水を水風呂として利用した 2 日間のテントサウナイベントを実施した結果、延べ 200 人以上の集客と圧倒的な満足率を得ることができた。タラソピアは滑川市の施設であり、行政との連携が必要だったものの、偶然 2023 年が滑川市の市制 70 周年であり、観光課に補助金が下りるため、そのお金を活用し常設サウナを設置する予定となっている。

3.2 泉町活性化プロジェクト・テントサウナ体験

2022 年 9 月 16－17 日に、宇都宮市泉町にて、泉町活性化プロジェクト 2022・泉町ビアガーデン&テントサウナ体験のイベントを開催した。ビアガーデンは昨年以前から実施しているものであるが、若者の来街を促進するために、今年はテントサウナを設けた。テントサウナの運営・管理に関しては、栃木県塩谷町を拠点としているテントサウナレンタル業者の **Soto Sauna based in Tochigi** に委託した。2022 年 12 月には、茨城県結城市にて古民家利活用のイベントと合わせてテントサウナ体験のイベントの開催を予定しているなど、まちづくりに関しても興味があるグループとのことである。

ここで、テントサウナを体験した人向けにアンケートを募り、テントサウナイベントを開催した場合の基礎的な興味や関心について質問を設けた。

まず、テントサウナエリアの満足度を調査した結果を図 1 に示した。1 が非常に満足、5 が非常に不満というものだが、多くの人に満足してもらえる結果となり、ビアガーデンの片隅に置いたテントサウナで、十分な水風呂もなかったのにも関わらず高い満足度を得ることができたのは、テントサウナに入ることの行為に高い価値があることが考えられる。

次に、テントサウナをする場所としてはどのようなところがよいかを調査した結果を図 2 に示した。私たち調査する側としては、川沿い（上流・下流）・公園・市街地という選択肢を準備したが、人気があったのは川沿い（上流）と市街地であった。川沿い（上流）は一般的なイメージもつきやすい大自然に囲まれた風景を思い浮かべながらサウナに入ることが考えられるが、市街地でやることを希望する意見が多かったのは意外だった。アクセスのよい市街地でテントサウナイベントを行った場合に、比較的容易に体験することができる価値が大きいのではないかと考えられる。

また、今回のテントサウナ体験は無料で入ってもらったが、もし有料となるイベントだった場合、参加費がいくらまでなら参加するかの調査結果を図 3 に示した。有料なら参加しないという意見もあったが、1000 円までなら参加するという声が一番多かった。なお、先述した富山県滑川市のテントサウナイベントの参加費は 3000 円だったため、どの点に特色を出していくか、また PR の方法も考慮される必要があると考えられる。一般的に、多くのテントサウナイベントは有料であるが、これは温浴施設のサウナに入るよりも高額であるのにも関わらず人が集まってくるのは、やはりテントサウナに入ることによって価値を見出している人が多いのではないかと考えられる。

今回のイベントのテントサウナエリアの満足度を教えてください。

9件の回答

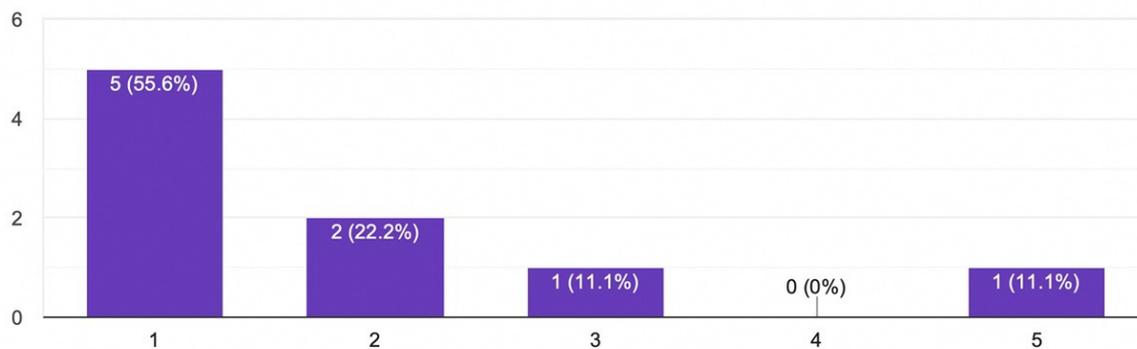


図1 テントサウナの満足度の調査結果

テントサウナイベントが開催される場所として、どのようなところがいいですか。

9件の回答

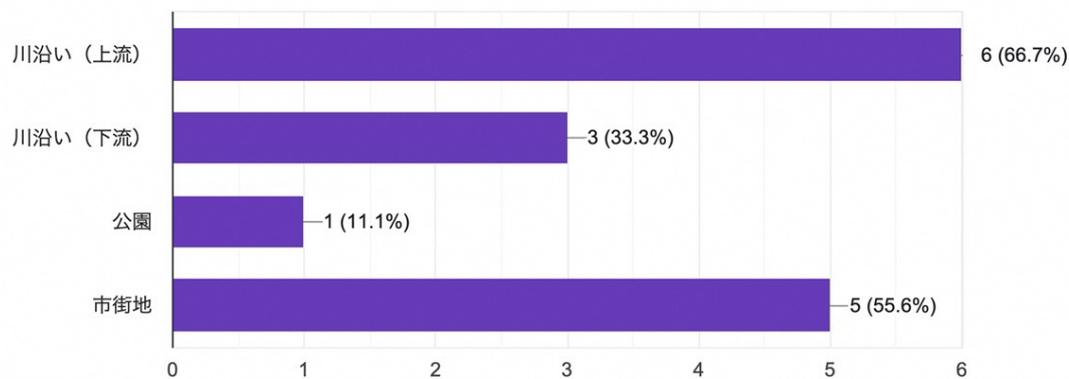


図2 テントサウナイベントが開催される場合の場所に関する調査結果

今回の規模でサウナの入浴が有料となるイベントの場合、参加費がいくらまでなら参加しますか。
9件の回答

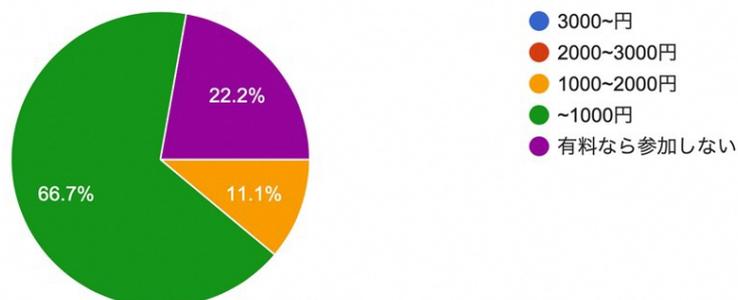


図3 テントサウナイventが開催された場合の参加費に関する調査結果



写真1 泉町テントサウナ体験の実際の様子

3.3 宇都宮市内で利用できる温浴施設のサウナ

宇都宮市内でサウナを利用することができる温浴施設を調査したところ、12件の施設がヒットした。これら施設が位置する場所を示した地図を図4に示す。図を見るに、粗方満遍なく施設が位置しているように見え、少なくとも自動車を使えば市民のほとんどはサウナを利用することが

できる環境にあると考えられる。市民がサウナで健康増進の取り組みをすることに興味さえ持てば、サウナのまち宇都宮としてアピールしていく潜在的なものもあると考えられる。

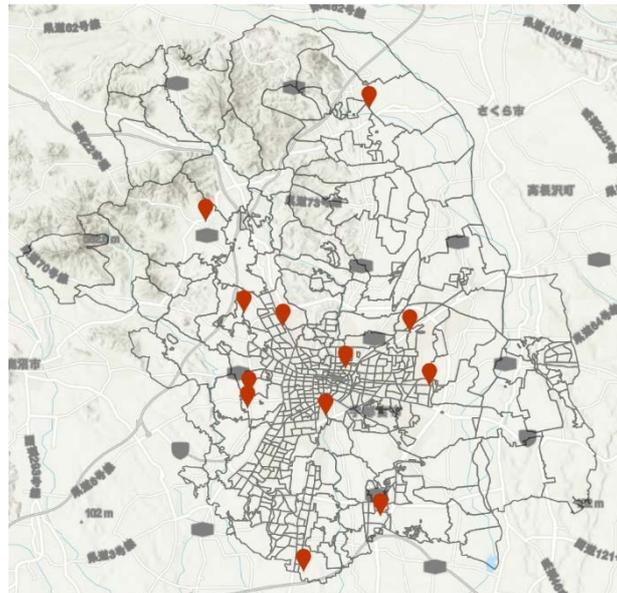


図4 宇都宮市内のサウナがある温浴施設の所在図

4. 施策事業の提案

・都会と自然・宇都宮サウナツアー

一般にテントサウナをすることができる場所としては河川や海、水風呂を設置したうえでの公園や市街地の空き地などが考えられるが、宇都宮市には海がない為この選択肢は必然的に除外されるものの、宇都宮市森林公園や鬼怒川をはじめとした自然が多く存在し、テントサウナを行うにはうってつけの場所が非常に多い。そして、泉町という市街地でもテントサウナイベントを行う実績を作った。そこで私たちが考えた施策が、宇都宮市内の各地にテントサウナを設置し、それを場所を動かしながら連続したイベントにすることで、その会場の点でのにぎわいはもちろん、宇都宮市内の広域的な観光流動も期待することができる。そして、宇都宮市内の様々な地域的な魅力を再発見させることのきっかけにもなる。

ここで、宇都宮市内の河川、緑地、100000㎡以上の面積を有する大規模公園の位置を記した地図を図5に示す。河川は線で、緑地はピン、大規模公園は木のマークで記されている。主に旧河内町・旧上河内町の区域を除く区域で緑地や大規模公園が大きくみられるが、旧両町の区域にも河川は存在するほか、広大な農地が存在するなど豊かな自然環境が存在するため、宇都宮市全域でそれぞれの場所の特色を出しながらテントサウナイベントを実施しにぎわいを形成していくことのポテンシャルは十分にあると考えられる。

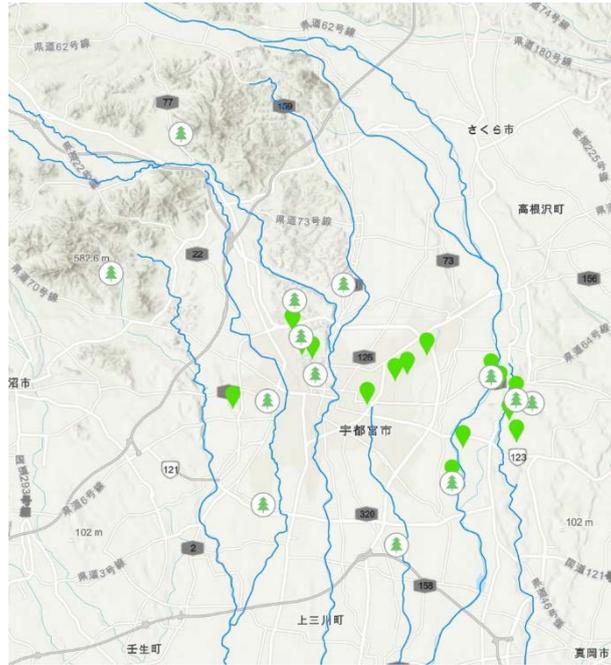


図5 宇都宮市内の河川・緑地・大規模公園の所在図

【参考文献】

- 1) ととのう とっとり <https://totonou-tottori.jp/> (2022年11月24日閲覧)
- 2) おんせん県いいサウナ研究所 <https://iisaunalab.com/> (2022年11月24日閲覧)
- 3) 豊後大野市ー「サウナのまち」を宣言しました！ <https://www.bungo-ohno.jp/article/2021071900011/> 2021年7月30日 (2022年11月24日閲覧)
- 4) 椎葉村秘境サウナデザインコンテスト <https://shiiba-sauna.com/> (2022年11月24日閲覧)